

1. 教育の責任

健康栄養学部では、「食」を通じて人々の健康および生活の質の向上を支援する管理栄養の専門家として、医療、福祉をはじめ、スポーツ、学校、企業など幅広い分野で社会に貢献できる人材の養成を目標としている。この目標を達成するための教育の一環として、本教員は以下の教科の講義を担当し、学生教育に取り組んでいる。

「公衆衛生学Ⅰ」（栄養学メジャー必須科目、1年次秋学期、2単位、Aクラス41名）

「公衆衛生学Ⅰ」（栄養学メジャー必須科目、1年次秋学期、2単位、Bクラス41名）

「公衆衛生学Ⅱ」（栄養学メジャー必須科目、2年次春学期、2単位、Aクラス47名）

「公衆衛生学Ⅱ」（栄養学メジャー必須科目、2年次春学期、2単位、Bクラス45名）

「特別演習Ⅰ」（栄養学メジャー選択科目、3年次春学期、2単位、85名、オムニバス）

「特別演習Ⅱ」（栄養学メジャー選択科目、3年次秋学期、2単位、85名、オムニバス）

「特別演習Ⅲ」（栄養学メジャー選択科目、4年次春学期、2単位、69名、オムニバス）

「特別演習Ⅳ」（栄養学メジャー選択科目、4年次秋学期、2単位、69名、オムニバス）

（その他）

「公衆衛生」（看護学メジャー必須科目、2年次秋学期、2単位、85名）

「公衆衛生学特論」（国際看護学研究科必須科目、1年次春学期、2単位、10名）

2. 教育の理念

健康栄養学部管理栄養学科に入学した学生は、人々の健康を守る「管理栄養士」になることを第一の目標としている。健康栄養学部の教育では、まずその目標を実現できるよう全力で支えることが求められる。「管理栄養士国家試験」に合格するためには、多くの科目を学び、総合的な知識を身につける必要がある。そのため、「国家試験」を念頭に置いた体系的な教育が欠かせず、講義内容を常に最新の概念とデータに基づいて更新することを心がけている。

さらに、知識を身につけるだけでなく、自身が掲げた目標を達成することで、どのように社会に貢献できるのかを講義を通じて伝えることも重要である。学生が常に使命感と緊張感を持ちながら、有意義な4年間の学生生活を送れるよう、メンタル面のサポートにも細やかな配慮をしている。

3. 教育の方法

1年次および2年次の専門科目である「公衆衛生学Ⅰ、Ⅱ」では、国家試験対策に必要な基礎知識を確実に習得させるとともに、健康を守る上で重要な基本的な知識や、健康を増進させる要因および悪化させる要因に関する考え方の変遷を指導する。これにより、将来、患者や一般の方々に対して効果的な健康指導を行う際に役立てられるよう工夫している。

3年次の国家試験対策科目「特別演習Ⅰ」「特別演習Ⅱ」では、国家試験に必要な知識の基礎を確立し、応用力を養成することを目的としている。さらに、4年次の国家試験対策科目「特別演習Ⅲ」「特別演習Ⅳ」では、個別の課題解決に重点を置き、実践的な国家試験対策を展開している。

また、国際看護学部の講義である「公衆衛生」では、グローバルな視点から公衆衛生における課題を学び、国家試験に直結する実践的な内容を習得することを目指している。一方、国際看護学研究科で開講される「公衆衛生学特論」では、より高度で専門的な知識を学ぶとともに、国際保健分野における公衆衛生学の最新研究や理論に触れ、実際の課題解決に活用する能力を育成することを目標としている。

4. 教育の成果

「公衆衛生学Ⅰ、Ⅱ」では、小テストと定期試験を通じて学生の理解度を評価し、成績が不十分な学生には再試験を実施した。再試験後、学生は必要な知識を習得し、理解が深まったことを確認した。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：健康栄養学部 名前：李明鎮 作成日：2026年1月22日

「特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」では、国家試験対策として、基礎知識の確認と応用力の養成に努めた。これにより、学生たちは必要な知識を習得し、着実に国家試験対策を進めている。

「公衆衛生」では、グローバルな視点から公衆衛生の課題を学び、国際的な健康問題に対する理解を深めた。国家試験対策に向けて、実践的な内容の講義を行い、公衆衛生学の基礎を強化した。また、今年度から授業開始時に小テストを実施し、学習内容の理解度の向上に努めた。

「公衆衛生学討論」では、課題レポートを通じて国際保健におけるさまざまな公衆衛生上の問題に対する理解を深めた。学生たちは講義と資料の分析を通じて、データ解析能力や批判的思考能力を高め、問題解決に向けた視点を広げた。

5. 改善への努力と今後の目標

毎年一定数の成績不良の学生が存在する状況を踏まえ、学習支援の体制をより強化する。特に、理解不足が蓄積して学習意欲の低下につながる悪循環を防ぐため、授業中の理解度チェックを継続的に実施し、つまづきを早期に把握する。

さらに、理解が不十分な学生に対しては、学習方法の指導や課題の提示などを通じて、学生自身が課題を認識し、主体的に学習を改善できるよう支援を行う。今後も、基礎知識の定着と学習習慣の形成を重視し、段階的な学修の積み上げにつながる授業運営を目指す。

【添付資料】

・各担当科目のシラバス